



磐城時報

五十町屋町平縣島福
成弘田岡人刷印
社報時城磐 上同所行發

新 年 號

謹 賀 新 年

昭和四年を迎ふ

昭和の新政布かれて、今茲は第四の春を迎へた譯である。短いこの期間に於ても、新興日本の若く、力強き姿は、世界人の眼に、少からぬ驚異を以て見られたに違ひない。榮々あり、望みあり、生々潑々の氣に満ちた前途、我等はそれを祝福すると共に、春の下萌の草の地を抜き、伸び蔓らんとする勢ひを以て、あらゆる方面に、跳躍を試みなければならぬと思ふ。

昨年は我等に取つて、誠に多事多端な年であつた。國の内外に簇出した出來事の中、最も重大な意義を持ち、深い感激の印象を彫りつけられたものは、勿論、今上陛下御即位の大典であらねばならなかつた。神代の古より、世々相承けて、天津日の光彌榮々に、今又新たなる輝きを、仰ぐも尊きくさくさの御儀は、天神來り授け、地祇來り護るの間に、式の如く終りを告げさせられた。そして、これに由り、日本の威重更に一段を加へ、昭和の御代の礎、常磐堅磐の末までも搖ぎなきに至つたことは、我等の衷心より歡喜雀躍措く能はざるどころである。

つらく、惟ふに、近時の政治、經濟、社會、教育、その他各方面に現はるゝ事象は、我等の甚だ寒心に堪へないものが多い。久しく待ちに待つた普選が實施されても、その謂はゆる選良たるものが黃白によつて、意志を左右せられ、節操を賣るやうなことは、實に沙汰の限り云はねばならない。又自治体の本家本元として、範を他に示すべき地位に在る東京の市議が、醜を司直の手に暴かれて、投獄せらるゝ者頻々たるの有様は、何ごい浅間しさ、見苦しさであらうか。

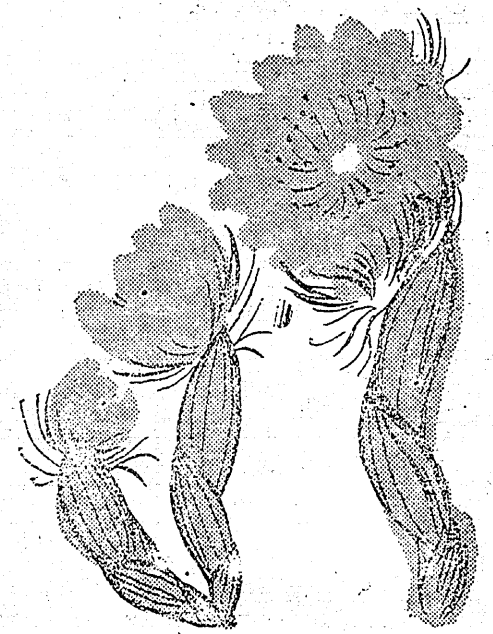
更に歐米文化の皮相を撫で、左傾思想に囚はれて、社會の公序、安寧を紊さうとする輩が、最高學府の學生であり、婦人であることは、我等の驚目し、駭心して、且つ浩漢、深慨を禁じ得ないところである。

斯く觀じれば、我等筆政の任に在るものは、負荷にあまる程の重責を、双肩に加へられた心地がして、眞に食頃も晏如たるを許さないのである。

年の初頭、洋々の前途を望んで、我等は特に爲政家、社會學者、教育家諸氏に、三思を請ひたいと共に、各人各個に於ても、それ／＼深き省察、戒慎を奨むる次第である。

昭和四年一月元旦

磐城時報社同人



物人的表代のれ生歳已

實業界の大立物

堀江工業江口忠一氏

土木請負業の大立物で、地方に於ての工事監督に従事し、更に大正元年立志傳中の代表者と言はれてゐる平から五年迄鎮海海軍港部工事、釜山町堀江工業株式會社社長江口忠一氏鎮埋築工事等に從事し幾多の經驗を以て明治十四年三月八日已歳生れ、江得て大正六年堀江工業株式會社を創口氏は明治三十年十七歳にして佐世立し東北に於ける請負業界に雄飛す保鎮守府内船臺築造工事を行つてゐる第一歩を築いた。氏は氣力剛膽、大串組の現場監督として土木事業意欲鞏固で、その事業は片づきしに關係したのが現在事業の初まりで成功し現在では鐵道省を初め栃木ある。明治三十四年十二月工兵第十宮城等の土木課、横須賀鎮守府等の二大隊に入營し日露の戦役に従軍し他の大工事を請負つてゐるため宇都工兵曹長となり戦功により下士満宮、青森、函館、札幌、福島等各地任證並に勳七等功七級を賜つた。明に出張所を設くるに至つた。地方稀治三十九年十月より四十四年十月迄に見る成功家で殊に人間味が豊富な世田ヶ谷砲兵隊及び宮内省匠寮等点で一般から崇敬されてゐる。

石城地方の恩人

元代議士白井博之氏

元代議士として地方公共のため一身業、歸郷するや村議、郡議に推されを賂して奮闘を惜しまなかつた前本名譽參事會員にあげらる。縣會議員縣農工銀行頭取白井博之氏は明治二から進んで衆議院議員となるや地方年十二月十八日石城郡小川村に生る開發のため努力した。即ち小名濱幼にして郷里を出で京都に遊學し次築港、平小鐵道等の問題に於ては實いで東京英語學校並に農林學校を卒に氏は石城の恩人であらねばならぬ

成功家中の成功家

百萬長者小田吉治氏

これこそ成功家中の成功家として社内、吉野の各炭礦を稼ぎ廻り、更に會から認められてゐる炭礦王小田吉治氏に渡つて奮闘したが成功せず、治氏は十四年五月秋田市に生る。幼更に石城に來つたのが二十五歳の時にして家政振はす貧苦の中に育つたのである。礦山労働に従事し、炭礦事として現では眞に百萬長者の大金持務員となり、覺る處があつて自立すとして羨まれてゐる。氏が今日に及ぶ決心をなし好問炭礦の一部を借りぶまでには粒々辛苦血の出るやうなうけたのが大正五年、これが今百萬努力をなした事は言ふまでもない。長者となる成功の糸口であつた。三家を飛び出したのが十九歳の年であつた。十九歳の時赤井村に十萬餘坪の礦區を、裸一貫で岩手縣水澤、松岡、院を持ち、二十七萬圓の巨費を投じて

模範的名醫

醫學士高久忠氏

高久忠氏は會津坂下町の出身で高久醫院を開業、業務着々成功明治十四年生れ、會津中學校、し遂に今日の成功を見るに至つ金澤市第四高等學校を経て京都に。氏は性真摯、徳義心に富み帝國大學に入り明治四十二年卒友情厚く、名實共に兼ね備つた業、福島共立病院の副院長とな名醫である。趣味としては文學り、明治四十五年平町に來つてを好む。

全國消防界の功勞者

平消防組頭井上茂作氏

平消防組頭井上茂作氏は明治二のために一身を捧げてゐた事は年三月十二日神谷村に生る。一般の知る處である。近くは平時官界に入り、井上家を繼ぐに町に設置するに至つた片倉磐城至つて實業界に入り平町會に入り平町會議員となり平消防組頭となる。氏は全國消防界の功勞者で早くから大日本消防協會の設立を提唱してゐたが遂に政府でも其有意義なる立の運びに至つた事は井上氏の功績として永久に記録に残るべき事であ製糸會社のため日夜奔走し遂に氏は利慾に走らず正義の士成功するに至つた事を町民は非で、縣會議員當時は全く地方民常に感謝してゐる。



謹賀新年

平町二丁目
西村屋藥舖
電話三番

平町三丁目
三井吳服店
電話三八番・七五番

平町四丁目
鶴屋洋品店
電話一四〇番

平町四丁目平驛通り
永山酒造店小賣部
電話二〇七番

即半天専門
優良品の證明
草野染工場
磐城平町(電話三四八番)

平町紺屋町(電話一五九番)
住吉屋本店
青天目源一郎

平産婆看護婦學校
平看護婦會
清野きよ

銅・鐵・板金工作・建築ペイント塗料負
平町新川町(電話五六七番)
突田中宣治

平町四丁目(電話一一八番)
電氣機械器具
磐城工業商會
中村佐治助

釜屋さんにも日出度い春

本年卅七歳已歳生れの 若主人諸橋守次氏

令弟元三郎氏と共に 家業全部を支配

濱三郡に於ける實力のある富豪せぬが、若主人守次氏も亦公共として三歳の童子もその名を知的の寄附を惜しまぬ上隠れたるつてゐる平町釜屋商店諸橋久太慈善心に富み、かうした關係の郎氏の若主人諸橋守次氏は明治支出が一ヶ年間に萬を以て算す二十六歳已年生れ本年三十七歳なる額に達するだらうと言はれての春を迎えた人である。



氏は一見開放落の如く見えるが志操至つて穩健着實、人「寄附的の支出がどの位あるも格崇高、商略に長け、公共心にんですか」と聞くと「出して丁富んでゐる点に於て全く地方代つたものは覚えてゐませんよ」表的の紳商であると推賞して憚と呵々として大笑してゐるが、於て平水道布設工事に一萬三千ふに足る明言である。即ち利圓を筆頭として濟生會、赤十字窓には極めて淡白ではあるが、社、愛國婦人會、福島縣育英會、深恩熱慮を凝らすのが凡社、子孫會、神社等に大口の寄附人には容易に真似られぬ長所をなした外、凡ゆる公共團體にある、さればこそ父君久太郎氏巨額の寄附をなしてゐる美談は今や業務一切を守次氏並に元一般周知の事實として贅言を要三郎氏に委せきりて現在では全

く安心した閑居の余生を送つてゐるこの事である。兩氏共孝心に富み老父を慰むるため各種の苦心をしてゐるこの事であるが以て世の鑑とするに足るであらう。

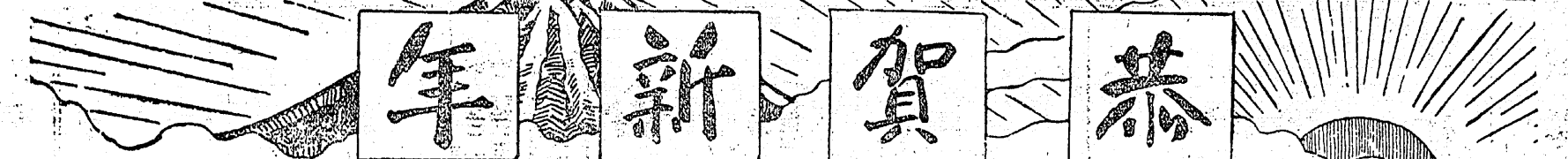
守次氏の人格斯くの如く、既に一般から定評があるので信望厚く、現在では平消防組の幹部、警城中學校同窓會會長、警城講道館有段者會長等の名譽職に推されてゐる外石城郡農會の副會長を勤めてゐる、嘗て郡農會の大山技師が記者に語つて曰く「諸橋守次氏といふのは商業方面の事ばかり考へてゐる人と思つた處、農村方面に關し詳細な理解と同情を持ち、農業經營についての抱負絶倫のある人で驚きました」と。如何に同氏が多方面に亘つて研究を遂げてゐるか窺はれるであらう。氏は又政治的手腕あり、近き將來に於て衆議院議員、若くは貴族院議員たるは言を俟たない。

新年歌

雨に風にめけすたゆまず松の枝の仰ぎ見るまでみそらにそびゆる
佐々木あきら

正月の内趣

初詣、恵方詣、七福神参りをなし年中の福運を祈る、海に初日を拜するもよく、暖地の旅に寒梅を探るも興深い。市中は羽子板、萬歳、消防出初式等で賑はふ。家にあつては歌留多會、圍碁、將棋、謡曲、茶湯、双六、追羽子、和歌、俳句等の發會、薔薇、牡丹の根接、茶、果樹の施肥、温床に蒔く。



<p>四倉町々會議員 大和田安太郎 小港宗吉 鈴木藤吉</p>	<p>二階堂寛 四倉驛貨物係主任</p>	<p>末永新右衛門 債券兩替質商</p>	<p>多田井質店 平町大工町</p>	<p>ラチオ組立部分品 販賣 電氣器具各種</p>	<p>常磐ラチオ商會 平町南町電話(呼)四五五番</p>	<p>命諸橋吳服店 平町新川町 電話五十番</p>	<p>大谷時計店 平町三丁目 電話五十九番</p>	<p>栗野屋 平町大工町(電話四百十番) 石澤茂</p>	<p>食道樂大貞 平町田町(電話四一三番)</p>	<p>ベニヤ小鳥店 白土喜伯</p>
<p>平洋服商組合 (順序不同) 紺屋土井洋服店 紺屋山洋服店 紺屋影川洋服店 紺屋佐川洋服店 紺屋丸善洋服店 研路小松洋服店 研路高野洋服店 田木關洋服店 古鍛冶京屋洋服店 材木ヒツジ洋服店 一丁目錦洋服店 南町高島洋服店 田町高島洋服店 研路高島洋服店 古鍛冶江島洋服店 二丁目江島洋服店 一丁目巴屋洋服店 一丁目仙臺洋服店</p>	<p>湯本旅館 料理店組合 松形館(電五) 山形館(電四) 常陸館(電三) 大和館(電二) 備前館(電一) 昭和中館(電八) 勇安館(電四) 萬松屋(電二) 柳野屋(電一) 濱松屋(電一) 三好屋(電一) 東好屋(電一) 古寶屋(電一)</p>	<p>山野邊藥局 平町五丁目角 藥劑師山野邊東次郎</p>	<p>突貫急行 帝キネ超特作百々の助演 幕末朱鞘小姓全部上映 劍史朱鞘小姓全部上映 マキノ超々特作 佐平次 捕物帳 特別(大人三〇〇)有聲座 普通席(小人一〇〇)</p>	<p>巨篇燃た大名篇 三十一日、四日間 帝キネ現代小唄悲劇 串本音頭 子ヤドウウ井ツク會社特作 大王笑國萬歳 大帝キネ超特作黄金篇 大久保彦術門 壽々喜太呂九平原作脚色 佐平次 捕物帳 後篇 十八卷</p>	<p>平消防組 組頭 井上茂作 副組頭 石坂詮太郎 第一部長 柏原幸次郎 第二部長 鈴木長三郎 第三部長 諸橋守次郎 頭 岡田政次郎 高野得助 三井正吉 關内正一 酒井清 高根澤長太郎 浦井兼作 根本幸次郎 田中宣次郎 佐川三郎 阿部治郎 安部初吉 高木福太郎 金成泉一郎</p>					

大屋 第一 各種宴會 輪 爲 吉

四方拜祝賀式と 恒例名刺交換會

磐城中等學校、磐城高等女學校、平商業學校、平第一、第二等眞影を奉持する學校では平警察署、平町役場、平區裁判所その他の官衙の公吏員參列の上一月一日午前九時一齊に四方拜の祝賀式を行ひ午前十一時から例年の如く平町役場主側の新年名刺交換會が開かれる。出席者約千名で伏見町長祝辭を朗讀しその發聲で皇室の萬歳を三唱し宴を張つて散會する豫定である。

年賀狀二百萬枚に達し 戦場のやうな平局

の前に初丸播の若妻がほんの頬を赤らめて歌留多とる手つきが艶かしい、若やいだ嬌聲も松の内ばかりは賑はしく嬉しく、床の早梅の二三輪綻び初め、重ね餅の上の鯉の赤さも慶祥來福の感じがする、やがて三ヶ日も過ぎて門松がとられると赤井嵐の空風が凍りついた街巷を吹き捲くり一枚二枚と年賀狀の運着も絶えずと又うそ寒い町になる。(やまもと生)



平地方正月行事

- ▲一日 四方拜祝賀式、新年名刺交換會
- ▲二日 初荷、平地方は舊正月二日
- ▲三日 元始祭、三弘法詣等を行ふもの極めて少ない。
- ▲四日 山開、諸官衙御用始。
- ▲五日 新年宴會、初水天宮詣
- ▲六日 消防出初式、平町の消防組は模範と言はれてゐるためあつて出初式は地方に見られぬ賑やかさで、町内を廻り離れ業を演じ見事な年中行事の一つに數へられてゐる。
- ▲八日 各學校始業式

正月雜感

花瓦斯の光りも眩しい金屏風理に、局員の外三十名の臨時事

豫告

本社は昭和四年度に於て左の二つの催はしを試みます
五中學對抗
野球試合
磐城、双葉、相馬、田村、安積五中學校の對抗野球試合を六月中旬に磐中グラウンドで行ふ。

石城郡藝妓 演藝競演會

石城郡平、四倉、湯本植田、小名濱各町の藝妓競演會を三月中旬平町で催はします。

以上二大計劃共詳細は追て發表致します。
主催 磐城時報社

謹賀新年

平町一丁目 漆器商 和久井屋 電話四〇五番	平町四丁目 三井質店 電話六〇六番	平町四丁目 三井自動車部 平町二丁目	平町四丁目 勇屋履物店 電話三三七番	平町四丁目 新妻履物店 平町紺屋町	平町四丁目 百澤商店 電話一二番	平町二丁目 宇佐見藥局 宇佐美友次郎	平町二丁目 炭屋旅館 關内喜久次郎	平町二丁目 三井履物店 電話一五六番	平町田町 大塚支店 製靴部 電話七〇二番	平町二丁目 なかや洋服店 電話二〇三番
-----------------------------	-------------------------	--------------------------	--------------------------	-------------------------	------------------------	--------------------------	-------------------------	--------------------------	----------------------------	---------------------------

謹賀新年

(同不序順) 志有院醫病

市原病院 電話一二四番	原齒科醫院 電話三一三番	萩原齒科醫院 電話二五九番	星眼科醫院 電話四七一番	大森醫院 電話二五八番	織田齒科醫院 電話四一六番	若松小兒科醫院 電話五〇五番	金成醫院 電話三五八番	高久病院 電話五二三番	上田外科醫院 電話二二九番	平吹醫院 電話七三九番	矢吹醫院 電話二六六番	松村病院 電話一〇七番	合津耳鼻咽喉醫院 電話五九九番	酒井醫院 電話五五五番	實川南醫院 電話二七〇番
----------------	-----------------	------------------	-----------------	----------------	------------------	-------------------	----------------	----------------	------------------	----------------	----------------	----------------	--------------------	----------------	-----------------

和洋銅鐵

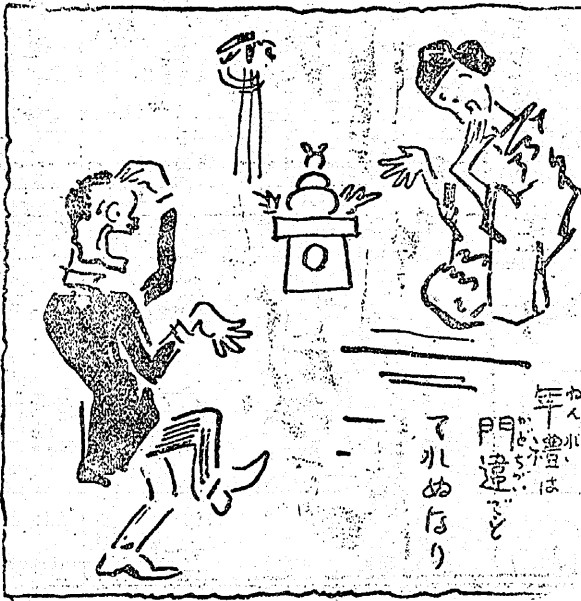
平町材木町

インデアン自動車、販賣部、植田郵便局長



残しておきたい 日本の正月情緒

この数年、正月になると松飾りも門松が連想の端緒でなくしてはしめ飾りを中心に経済上からいならぬ。殊に児童の生活の考慮を以て非難攻撃の説が繰かへの中に入れて見れば夢の國を追はれるけれども、虚飾、虚飾に彼等の憧憬を打ちこはすといふ事を兒童教育から見ても充分に考ふべき事だと思ふ。節約といふ事もいふ事ではあるが、僅かの費用で維持する事が出来る浮風美俗を無に捨て去るには及ばない事ではあるし、松飾りも三年生位に止めれば大變な問題は起らないと思ふ。それよ、酒と女とがなければ成立たぬやうに思はれてゐる年末年始の年々始の宴會といふものを節約したならば、節約といふ意味から言つてもより以上の結果が得られる事だらうと思ふ (一記者)



今年蛇年 十二支蛇の話

神代の昔稲田姫が、八岐の大蛇に苦しめられてゐる處を、素盞鳴尊が救つたといふ話を始めとして、我が國には昔から大蛇に関する話は澤山あるが、實際には余り大きなものは無い。うねばみの三丈もあるものが人を呑んだといふ昔話はよく聞か、これはた見たといふに過ぎないから

當に知らない。然し熱帯地方には大蛇がある。印度附近の「ニシキ蛇」は二丈位ある。鶏や小鹿などを丸呑みにする。又南アフリカの「ボア」も大きな蛇で長さ一尺二尺に及ぶ。毒蛇では内地に「マムシ」があり沖繩に「ハブ」が居り臺灣には百歩へび、青竹系、雨傘へび等がある。印度のアスパスといふ毒へびは長さ八尺に達し其の毒は頗る激烈で、噛まれたものは死する。北アフリカの「ヘビ」は日本の青

大將のやうなもので毒が激しい。印度のコブラの恐ろしい毒へびで長さ六尺位、之に噛まれた者も大抵死んでしまふへびは形の上から人に嫌はれてゐる。然し一方では宗教的に信仰されてゐる。ローマでは古來神聖なものとして、印度では元釋迦の使とされ、日本でも出雲國の大神に近しい海に居る海へびが神の使ひであると言はれたり、辨天様の御使ひは白へびであると言はれたりしてゐる。又北海道では海へびが捕れると大漁の前兆だと喜ばれ、出漁の際には大漁を得るため海へびを携帯する風が生じ、海へびの乾し物が高價に賣れる。

謹賀新年

昨年中は特別の御引立を蒙り難く、謹申上候
尚本年も不相變御愛顧之程奉懇願候

謹賀新年

平町三丁目 電話三五九番 平町新田前 電話七三三番	丸はん家具店 丸はん家具製作所	加藤丈夫營業所 貸家地所代理店部 平町白銀町(電話三三三番) 平町三丁目 電話三五九番 平町新田前 電話七三三番	昭 和 園 平町三丁目 電話三五九番 平町新田前 電話七三三番	馬 會 平町三丁目 電話三五九番 平町新田前 電話七三三番	關 内 油 店 平町三丁目 電話三五九番 平町新田前 電話七三三番	平町二丁目(電話十六番)	關 内 正 一 店					
平町三丁目 電話三五九番 平町新田前 電話七三三番	山崎合名會社 平町三丁目 電話一〇番・二七番	平町田町(電話四五六番)	駒場株式會社	平町公私立校長懇和會	豐問大敷網事務所	肉は三二三 平町田町(電話三三三番)	工 榮 商 會 佐々木健一郎	荒 貨 物 商 大 一 屋 商 店 平町二丁目(電話一三三番)	富 岡 町 早 川 清 久	豐問村長 志 賀 兼 吉		
四倉電氣株式會社 社員 中野捨與 佐藤四方治 渡邊忠衛 古市隆則 波邊富重 上澤春次 高木久三 渡邊今朝美	四倉鐵工所 西山惠一 植田政一	海 盛 座 四倉共同興業部	四倉驛前 吉田油槽所 四倉驛前(電話四八番) 平一丁目 支店	關彰商店 倉庫部	木 村 信 安 長谷川好太郎 山野邊政太郎	湯本郵便局長 鯨 岡 潔	平町播磨小路 鈴木盛之助	石塚亥之助	加 納 外 一			
平町白銀町 電話七六六番	水野水室	四 倉 町 深谷藥舖 電話二八番	平町二丁目 漆器商 鈴木民治 電話五四六番	四倉小學校 校長 馬場末松	神谷村長 佐藤久三郎	四倉驛前 四倉製糸所 電話三五番	大浦消防組頭 鈴木喜三郎	平町屋町(電話五三〇番) 柳下製材所	綿類製造販賣(安積屋號) 高木信太郎 平町屋町(電話四四二番)	平町四丁目 卜 印 魚 問 屋 電話五二八番	弓羽子板類 金太郎玩具店 平町三丁目	四倉町長 杉原新伍 助 役 菅波千之助

西・洋御料理 平町田町

一 下



<p>平町仲町(電話七三四番) 二葉印刷所</p>	<p>磐城共濟病院 平町(電話六四一番)</p>	<p>釜屋商店 諸橋元三郎 諸橋守次</p>	<p>東部電力株式會社平營業所 所長 武田精一</p>	<p>小田炭礦株式會社 社長 萩原申八 平町十五丁目</p>	<p>スッラン撞球場</p>	<p>磐城炭礦株式會社礦業所</p>	<p>平電氣株式會社</p>
<p>平料理屋組合</p>	<p>石城郡川部村 土木請負業 中山吉之助</p>	<p>磐城水産工業株式會社 社長 小野晋平 支配人 福尾伊太郎</p>	<p>平町長 伏見彦衛 平町助役 佐藤要四郎</p>	<p>小名濱水産株式會社</p>	<p>古河炭礦好間礦業所</p>	<p>豐間村縣立回春園 園長 川井重之</p>	<p>江名漁業組合 組合長 佐藤徳太郎</p>
<p>江名信用販賣組合 組合長 太清左衛門</p>	<p>日英米佛獨專賣特許 女王醬油 ヤマト醬油株式會社 平町(電話七四一番)</p>	<p>平町鍛冶町(電話五三三番) 賀正三國屋印刷所 高野吉太郎</p>	<p>炭礦用諸材木 材木商 三佐藤三平商店 內郷村小島(電話四三〇番)</p>	<p>石城郡小名濱町 水野順弘 舊名(政次郎)</p>	<p>有煙・無煙・各種石炭 高橋龜松 平町白銀町</p>	<p>堀江工業株式會社 社長 江口忠一</p>	<p>平町田町 マルト撞球場 電話四六五番</p>

恭 賀 新 年

安島重三郎	木村清治	中野甲藏	山崎與三郎	小野晋平	四家又一	縣會議員 古川傳一	伊藤淺之助
縣會議員 山崎吉平	縣會議員 野崎滿藏	縣會議員 鷺清昇	高岡唯一郎	植田物産株式會社 山崎登	松本德一	植田水力電氣株式會社 社長 金成通	專務取締役 加納五郎 平製氷株式會社
株式會社 平魚市場	石城郡銀行組合	石城郡小名濱町 磐城海岸軌道株式會社 支配人 丹野寬平	入山採炭株式會社 坑務所	七十七銀行平支店 山田勇太郎	四倉銀行會社組合	津川炭礦 隅田川炭礦 好間元山炭礦 礦主 小田吉治	平藝妓屋組合

